



RADIUS サーバコマンド

この章は、次の項で構成されています。

- [allowed-time-range](#) (2 ページ)
- [clear radius server accounting](#) (3 ページ)
- [clear radius server rejected users](#) (4 ページ)
- [clear radius server statistics](#) (5 ページ)
- [clear radius server unknown nas](#) (6 ページ)
- [privilege-level](#) (7 ページ)
- [radius server accounting-port](#) (8 ページ)
- [radius server authentication-port](#) (9 ページ)
- [radius server enable](#) (10 ページ)
- [radius server group](#) (11 ページ)
- [radius server nas secret](#) (12 ページ)
- [radius server traps accounting](#) (14 ページ)
- [radius server traps authentication success](#) (15 ページ)
- [radius server user](#) (16 ページ)
- [show radius server accounting](#) (18 ページ)
- [show radius server configuration](#) (20 ページ)
- [show radius server group](#) (21 ページ)
- [show radius server rejected users](#) (22 ページ)
- [show radius server statistics](#) (24 ページ)
- [show radius server nas secret](#) (26 ページ)
- [show radius server user](#) (27 ページ)
- [show radius server unknown nas](#) (28 ページ)
- [vlan](#) (29 ページ)

allowed-time-range

ユーザが接続できる時間を定義するには、RADIUS サーバグループ コンフィギュレーション モードで **allowed-time-range** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
allowed-time-range time-range-name
```

```
no allowed-time-range
```

パラメータ

- ***time-range-name*** : time range コマンドで設定した時間範囲名を指定します。

コマンドモード

RADIUS サーバグループ コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

ユーザが接続できる時間を定義するには、**allowed-time-range** コマンドを使用します。

デフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

例

次に、定期的な時間間隔を割り当てる例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# time-range connection-time  
switchxxxxxx(config-time-range)# periodic mon 12:00 to wed 12:00  
switchxxxxxx(config-time-range)# exit  
switchxxxxxx(config)# radius server group developers  
switchxxxxxx(config-radser-group)# allowed-time-range connection-time  
switchxxxxxx(config-radser-group)# exit  
switchxxxxxx(config)#
```

clear radius server accounting

RADIUS アカウンティングキャッシュをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear radius server accounting** コマンドを使用します。

構文

clear radius server accounting

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

RADIUS アカウンティングキャッシュをクリアするには、**clear radius server accounting** コマンドを使用します。

例

次に、RADIUS アカウンティングキャッシュをクリアする例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# clear radius server accounting
```

clear radius server rejected users

RADIUS 拒否済みユーザキャッシュをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear radius server rejected users** コマンドを使用します。

構文

clear radius server rejected users

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

RADIUS 拒否済みユーザキャッシュをクリアするには、**clear radius server rejected users** コマンドを使用します。

例

次に、RADIUS 拒否済みユーザキャッシュをクリアする例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# clear radius server rejected users
```

clear radius server statistics

RADIUS サーバのカウンタをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear radius server statistics** コマンドを使用します。

構文

clear radius server statistics [*ip-address*]

パラメータ

- *ip-address* : RADIUS クライアントのホスト IP アドレスを指定します。IP アドレスは、IPv4、IPv6、または IPv6z アドレスを使用できます。

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

すべてのカウンタをクリアするには、パラメータを指定せずに **clear radius server statistics** コマンドを使用します。

特定の NAS のカウンタをクリアするには、パラメータを指定して **clear radius server statistics** コマンドを使用します。

例

次に、RADIUS サーバのカウンタをクリアする例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# clear radius server statistics
```

clear radius server unknown nas

RADIUS の不明な NAS キャッシュをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear radius server unknown nas** コマンドを使用します。

構文

clear radius server unknown nas

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

RADIUS の不明な NAS キャッシュをクリアするには、**clear radius server unknown nas** コマンドを使用します。

例

次に、RADIUS の不明な NAS キャッシュをクリアする例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# clear radius server unknown nas
```

privilege-level

ユーザ特権レベルを定義するには、RADIUS サーバグループ コンフィギュレーション モードで **privilege-level** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

privilege-level *level*

no privilege-level

パラメータ

- **level** : ユーザ特権レベルを指定します。(範囲 : 1 ~ 15)

デフォルト設定

1

コマンドモード

RADIUS サーバグループ コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

特定のグループのユーザの特権レベルを定義するには、**privilege-level** コマンドを使用します。

デフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

特権レベルの値は、Vendor-Specific(26) 属性の Access-Accept メッセージで RADIUS クライアントに渡されます。この属性は、ログインユーザにのみ渡されます。

例

次に、開発者グループのユーザに指定した特権レベル 15 を指定する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# radius server group developers
switchxxxxxx(config-radser-group)# privilege-level 15
switchxxxxxx(config-radser-group)# exit
switchxxxxxx(config)#
```

radius server accounting-port

アカウント要求に使用するアカウント UDP ポートを定義するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **radius server accounting-port** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

radius server accounting-port udp-port

no radius server accounting-port

パラメータ

- *udp-port* : アカウント要求の UDP ポート番号を指定します。(範囲 : 1 ~ 59999)

デフォルト設定

1813

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

アカウント要求用の UDP ポートを定義するには、**radius server accounting-port** コマンドを使用します。

デフォルトの UDP アカウントポートを復元するには、**no radius server accounting-port** コマンドを使用します。

例

次に、ポート 2083 をアカウント UDP ポートとして定義する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# accounting-port 2083
```


radius server authentication-port

認証要求に使用する認証 UDP ポートを定義するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **radius server authentication-port** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

radius server authentication-port udp-port

no radius server authentication-port

パラメータ

- *udp-port* : 認証要求用の UDP ポート番号を指定します。(範囲 : 1 ~ 59999)

デフォルト設定

1812

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

認証要求用の UDP ポートを定義するには、**radius server authentication-port** コマンドを使用します。

デフォルトの UDP 認証ポートを復元するには、**no radius server authentication-port** コマンドを使用します。

例

次に、認証 UDP ポートとしてポート 2083 を定義する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# authentication-port 2083
```

radius server enable

組み込み RADIUS サーバを有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **radius server enable** を使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

radius server enable

no radius server enable

デフォルト設定

無効

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

組み込み RADIUS サーバを有効にするには、**radius server enable** コマンドを使用します。

組み込み RADIUS サーバを無効にするには、**no radius server enable** コマンドを使用します。

例

次に、組み込み RADIUS サーバを有効にする例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# radius server enable
```

radius server group

RADIUS サーバグループ コンフィギュレーション モードを開始して、このグループが存在しない場合に作成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **radius server group** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

radius server group group-name

no radius server group [group-name]

パラメータ

- **group-name** : グループの名前を指定します。(長さ : 1 ~ 32 文字)

デフォルト設定

グループは存在しません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

RADIUS サーバグループ コンフィギュレーション モードを開始するには、**radius server group** コマンドを使用します。このグループが存在しない場合は自動的に作成されます。

1 つのグループを削除するには、**no radius server group group-name** コマンドを使用します。

すべてのグループを削除するには、**no radius server group** コマンドを使用します。

このグループを参照しているユーザが存在する場合は、グループを削除できません。

RADIUS サーバは、最大 50 個のグループをサポートします。

例

次に、グループ開発者が存在しない場合は作成し、そのコンテキストを開始する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# radius server group developers
switchxxxxxx(config-radser-group)#
```

radius server nas secret

秘密鍵を作成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **radius server nas secret key** コマンドを使用します。鍵を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
radius server nas secret key key {default | ip-address}
```

```
radius server nas secret ip-address
```

```
encrypted radius server nas secret key encrypted-key {default | ip-address}
```

```
no radius server nas secret [default | ip-address]
```

パラメータ

- **key** : 特定のグループのデバイスとユーザ間の通信に認証と暗号キーを指定します。(範囲 : 0 ~ 128 文字)
- **encrypted-key** : key-string パラメータと同じですが、キーは暗号化形式です。
- **default** : 秘密キーを持たないNASとの通信に適用するデフォルトの秘密鍵を指定します。
- **ip-address** : RADIUS クライアントのホスト IP アドレスを指定します。IP アドレスは、IPv4、IPv6、または IPv6z アドレスを使用できます。

デフォルト設定

秘密鍵が存在しません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

秘密キーを持たないNAS間の通信に適用するキーを定義するには、**radius server nas secret key key default** コマンドを使用します。

指定したNASとの通信に適用するキーを定義するには、**radius server nas secret key key ip-address** コマンドを使用します。

指定したNASとの通信に適用するデフォルトの秘密鍵を定義するには、**radius server nas secret ip-address** コマンドを使用します。

このコマンドでNASを定義しない場合は、このNASから受信するすべてのメッセージがドロップされます。

RADIUS サーバは、最大 50 の NAS をサポートします。

デフォルトのキーを削除するには、**no radius server nas secret default** コマンドを使用します。

特定の NAS とその秘密鍵を削除するには、**no radius server nas secret ip-address** コマンドを使用します。

すべての NAS とすべての秘密鍵を削除するには、**no radius server nas secret** コマンドを使用します。

例 1。次に、デフォルトの秘密鍵を定義する例を示します。

```
switchxxxxxxx(config)# radius server nas secret key qrBut56$#qw default
```

例 2。次に、デフォルトの秘密鍵を定義する例を示します。

```
switchxxxxxxx(config)# radius server nas secret key qrBut56$#qw default
```

例 3。次に、デフォルトの秘密鍵を使用して NAS を定義する例を示します。

```
switchxxxxxxx(config)# radius server nas secret 10.05.10.1
```

radius server traps accounting

アカウントリングトラップの送信を有効にするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **radius server traps accounting** コマンドを使用します。このトラップを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

radius server traps accounting

no radius server traps accounting

デフォルト設定

アカウントリングトラップが無効になっています。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

トラップには次のようにレート制限が適用されます。このタイプでは、10秒間に複数のトラップを送信できません。

例

次に、アカウントリングトラップの送信を有効にする例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# radius server traps accounting
```

radius server traps authentication success

ユーザが正常に承認されたときにトラップの送信を有効にするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **radius server traps authentication success** コマンドを使用します。このトラップを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

radius server traps authentication success

no radius server traps authentication success

デフォルト設定

成功トラップが無効になっています。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーションモード

使用上のガイドライン

トラップには次のようにレート制限が適用されます。このタイプでは、10秒間に複数のトラップを送信できません。

例

次に、ユーザが正常に承認されたときにトラップの送信を有効にする例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# radius server traps authentication success
```

radius server user

ユーザを作成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **radius server user** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
radius server user username user-name group group-name password unencrypted-password  
encrypted radius server user username user-name group group-name passwordencrypted-password  
no radius server user [username user-name | group group-name]
```

パラメータ

- **user-name** : ユーザ名を指定します。(長さ: 1 ~ 32 文字)
- **group-name** : ユーザグループ名を指定します。(長さ: 1 ~ 32 文字)
- **unencrypted-password** : ユーザーパスワードを指定します。(長さ: 1 ~ 64 文字)
- **encrypted-password** : *unencrypted-password* パラメータと同じですが、パスワードは暗号化された形式です。

デフォルト設定

ユーザが存在しません。

RADIUS サーバは、最大 1,024 人のユーザをサポートします。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

新しいユーザを作成するには、**radius server user** コマンドを使用します。

1 人のユーザを削除するには、**no radius server user username user-name** コマンドを使用します。

特定のグループのユーザを削除するには、**no radius server user group group-name** コマンドを使用します。

すべてのユーザを削除するには、**no radius server user** コマンドを使用します。

例

例 1。次に、グループ開発者の名前に bob、パスワードに Aerv#136dSsT を指定して新しいユーザを作成する例を示します。


```
switchxxxxxx(config)# radius server user username bob group developers password  
Aerv#136dSsT
```

例2。次に、bill of group finance という名前の新しいユーザーを作成し、パスワードを暗号化形式で指定する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# encrypted radius server user username bill group  
finance password bCWG7DnKMNUaik4S0TkLDkJVYIsQcwQkRFVYj7VNvAI=
```

show radius server accounting

ユーザアカウント情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show radius server accounting** コマンドを使用します。

構文

show radius server accounting [*username user-name*]

パラメータ

- *user-name* : ユーザ名を指定します。(長さ : 1 ~ 32 文字)

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

RADIUS サーバは、フラッシュのサイクルファイルに最新の 1024 個のアカウントログを保存します。

1 人のユーザのアカウント情報を表示するには、**show radius server accounting username user-name** コマンドを使用します。

すべてのユーザのアカウント情報を表示するには、**show radius server accounting** コマンドを使用します。

例 1. 次に、すべてのユーザのアカウント情報を表示する例を示します。

```
switchxxxxxx# show radius server accounting
29-Jun-14, 16:00, Stop
  User: Bob
  Accounting Session Time: 6 hours,15 minutes
  Authenticated by: local
  NAS Address: 10.23.1.3
  User Address: 160.134.7.8
  Termination Reason: User Request
29-Jun-14, 12:04, Start
  User: Alisa
  Authenticated by: Radius
  NAS Address: 10.23.1.3
  User Address: 00:12:cf:00:1c:25
  NAS Port: 10
29-Jun-14, 12:04, Stop
  User: Alisa
  Accounting Session Time: 2 days,2 hours,10 minutes
  Authenticated by: Radius
  NAS Address: 10.23.1.3
  User Address: 00:12:cf:00:1c:25
  Termination Reason: User Request
*20-Feb-2008, 9:20, Date and Time were updated to 29-Jun-14, 11:00
20-Feb-2014, 9:05, Start
  User: Bob
  Authenticated by: local
```

```
NAS Address: 10.23.1.3
User Address: 160.134.7.8
*20-Feb-2008, 9:00, Reboot
```

例 2。次に、Bob という 1 人のユーザのアカウント情報を表示する例を示します。

```
switchxxxxx# show radius server accounting username Bob:
29-Jun-14, 16:00, Stop
  User: Bob
  Accounting Session Time: 6 hours,15 minutes
  Authenticated by: Radius
  NAS Address: 10.23.1.3
  User Address: 160.134.7.8
  Termination Reason: User Request
*20-Feb-2008, 9:20, Date and Time were updated to 29-Jun-14, 11:00
20-Feb-2014, 9:05, Start
  User: Bob
  Authenticated by: Radius
  NAS Address: 10.23.1.3
  User Address: 160.134.7.8
*20-Feb-2008, 9:00, Reboot
```

show radius server configuration

RADIUS サーバのグローバル設定を表示するには、特権 EXEC モードで **show radius server configuration** コマンドを使用します。

構文

show radius server configuration

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

RADIUS サーバのグローバル設定を表示するには、**show radius server configuration** コマンドを使用します。

例

次に、RADIUS サーバのグローバル設定を表示する例を示します。

```
switchxxxxxx# show radius server configuration
Radius Server Status: Enabled
Authentication UDP port: 1812 (default)
Accounting UDP port: 1813 (default)
Authentication failure traps are enabled
Authentication success traps are enabled
Accounting traps are enabled
```

show radius server group

RADIUS サーバのグループ設定を表示するには、特権 EXEC モードで **show radius server group** コマンドを使用します。

構文

```
show radius server group [group-name]
```

パラメータ

- **group-name** : グループの名前を指定します。(長さ : 1 ~ 32 文字)

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

1つのグループを表示するには、**show radius server group group-name** コマンドを使用します。

すべてのグループを表示するには、**show radius server group** コマンドを使用します。

例

次に、RADIUS サーバグループを表示する例を示します。

```
switchxxxxxx# show radius server group
Group gr1
  VLAN: 124
  Privilege Level: 15
  Time Range: ConnectionTime
  Group Users: develop, designers
Group gr2
  Privilege Level: 1 (default)
  Group Users: bob
```

show radius server rejected users

拒否されたユーザを表示するには、特権 EXEC モードで **show radius server rejected users** コマンドを使用します。

構文

show radius server rejected users [*username user-name*]

パラメータ

- *user-name* : ユーザ名を指定します。(長さ: 1 ~ 32 文字)

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

RADIUS サーバは、フラッシュのサイクルファイルに最後の 1024 の拒否された認証要求を保存します。

RADIUS サーバは、フラッシュのサイクルファイルに最新の 1024 個のアカウントログを保存します。

拒否された 1 人のユーザを表示するには、**show radius server rejected users user-name** コマンドを使用します。

拒否されたすべてのユーザを表示するには、**show radius server rejected users** コマンドを使用します。

例 1. 次に、拒否されたすべてのユーザを表示する例を示します。

```
switchxxxxxx# show radius server rejected users
30-Jun-14 16:44
  User Name: Jack
  User Type: Login
  NAS Address: 10.1.1.1
  User Address: 10.23.4.3
  Reason: Unknown user
30-Jun-14 16:04
  User Name: Bob
  User Type: Login
  NAS Address: 10.1.1.1
  User Address: 10.23.4.3
  Reason: Illegal password
*20-Feb-2008, 9:20, Date and Time were updated to 29-Jun-14, 11:00
20-Feb-08 16:24
  User Name: Robert
  User Type: 802.1x
  NAS Address: 10.1.1.1
  NAS Port: 2
  User Address: 00:67:67:96:ac:21
  Reason: Not Supported EAP method
```

```
20-Feb-08 14:14
  User Name: Alisa
  User Type: 802.1x
  NAS Address: 10.1.1.1
  NAS Port: 2
  User Address: 00:67:67:96:ac:21
  Reason: Not allowed at this time
*20-Feb-2008, 9:00, Reboot
```

例 2。次に、リジェクトされた Bob という 1 人のユーザを表示する例を示します。

```
switchxxxxxx# show radius server rejected users 30-Jun-14 16:04
  User Name: Bob
  User Type: Login
  NAS Address: 10.1.1.1
  User Address: 10.23.4.3
  Reason: Illegal password
*20-Feb-2008, 9:20, Date and Time were updated to 29-Jun-14, 11:00
*20-Feb-2008, 9:00, Reboot
```

show radius server statistics

RADIUS サーバカウンタを表示するには、ユーザ EXEC モードで **show radius server statistics** コマンドを使用します。

構文

show radius server statistics [*ip-address*]

パラメータ

- *ip-address* : RADIUS クライアントのホスト IP アドレスを指定します。IP アドレスは、IPv4、IPv6、または IPv6z アドレスを使用できます。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

RFC4669 と RFC4671 で定義されている RADIUS サーバカウンタを表示するには、**show radius server statistics** コマンドを使用します。

グローバルカウンタを表示するには、パラメータを指定せずに **show radius server statistics** コマンドを使用します。

特定の NAS のカウンタを表示するには、パラメータを指定して **show radius server statistics** コマンドを使用します。

例 1. 次に、RADIUS サーバのグローバルカウンタを表示する例を示します。

```
switchxxxxxx# show radius server statistics
Number of incoming packets on the authentication port: 120
Number of incoming Access-Requests from unknown addresses: 0
Number of duplicate incoming Access-Requests: 3
Number of sent Access-Accepts: 100
Number of sent Access-Rejects: 17
Number of sent Access-Challenges: 0
Number of incoming malformed Access-Requests: 0
Number of incoming Authentication-Requests with Bad Authenticator: 0
Number of incoming Authentication packets with other mistakes: 0
Number of incoming Authentication packets of unknown type: 0
Number of incoming packets on the accounting port: 80
Number of incoming Accounting-Requests from unknown addresses: 12
Number of incoming Accounting-Requests from unknown addresses: 0
Number of incoming duplicate Accounting-Requests: 0
Number of sent Accounting-Responses: 0
Number of incoming malformed Accounting-Requests: 0
Number of incoming Accounting-Requests with Bad Authenticator: 0
Number of incoming Accounting packets with other mistakes: 0
Number of incoming not recorded Accounting-Requests: 0
Number of incoming Accounting packets of unknown type: 0
```


例 2。次に、特定の SNA : 秘密鍵の RADIUS サーバカウンタを表示する例を示します。

```
switchxxxxx# show radius server statistics 1.1.1.1
NAS: 1.1.1.1
Number of incoming packets on the authentication port: 120
Number of duplicate incoming Access-Requests: 3
Number of sent Access-Accepts: 100
Number of sent Access-Rejects: 17
Number of sent Access-Challenges: 0
Number of incoming malformed Access-Requests: 0
Number of incoming Authentication-Requests with Bad Authenticator: 0
Number of incoming Authentication packets with other mistakes: 0
Number of incoming Authentication packets of unknown type: 0
Number of incoming packets on the accounting port: 80
Number of incoming Accounting-Requests from unknown addresses: 0
Number of incoming duplicate Accounting-Requests: 0
Number of sent Accounting-Responses: 0
Number of incoming malformed Accounting-Requests: 0
Number of incoming Accounting-Requests with Bad Authenticator: 0
Number of incoming Accounting packets with other mistakes: 0
Number of incoming not recorded Accounting-Requests: 0
Number of incoming Accounting packets of unknown type: 0
```

show radius server nas secret

秘密鍵を表示するには、特権 EXEC モードで **show radius server nas secret** コマンドを使用します。

構文

```
show radius server nas secret [default | ip-address]
```

パラメータ

- **default** : 秘密キーを持たないNASとの通信に適用するデフォルトの秘密鍵を指定します。
- **ip-address** : RADIUS クライアントのホスト IP アドレスを指定します。IP アドレスは、IPv4、IPv6、または IPv6z アドレスを使用できます。

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

デフォルトの秘密鍵を表示するには、**show radius server nas secret default** コマンドを使用します。

特定の NAS 秘密鍵を表示するには、**show radius server nas secret ip-address** コマンドを使用します。

すべての秘密鍵を表示するには、**show radius server nas secret** コマンドを使用します。

例 1. 次に、すべての秘密鍵を表示する例を示します。

```
switchxxxxxx# show radius server nas secret
Default Secret Key's MD5:1238af77aaca17568f1298cced1255cc
      NAS Address                Secret Key's MD5
-----
10.1.35.3                       1238af77aaca17568f1298cced165fec
10.2.37.6                       default
3000:1231:1230:9cab:1384        1238af77aaca17568f12988601fcabed
3001:ab11::9cda:0981           1238af77aaca17568f1298bc5476ddad
```

例 2. 次に、デフォルトの秘密鍵を表示する例を示します。

```
switchxxxxxx# show radius server nas secret default
Default Secret Key's MD5:1238af77aaca17568f1298cced1255cc
```

例 3. 次に、特定の NAS の秘密鍵を表示する例を示します。

```
switchxxxxxx# show radius server nas secret 10.1.35.3
      NAS ID                Secret Key's MD5
-----
10.1.35.3                 1238af77aaca17568f1298cced165fec
```

show radius server user

RADIUS サーバのユーザ設定を表示するには、特権 EXEC モードで **show radius server user** コマンドを使用します。

構文

```
show radius server user [username user-name] | [group group-name]
```

パラメータ

- ***user-name*** : ユーザ名を指定します。(長さ: 1 ~ 32 文字)
- ***group-name*** : グループの名前を指定します。(長さ: 1 ~ 32 文字)

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

1 人のユーザを表示するには、**show radius server user username *user-name*** コマンドを使用します。

特定のグループのすべてのユーザを表示するには、**show radius server user group *group-name*** コマンドを使用します。

すべてのユーザを表示するには、**show radius server user** コマンドを使用します。

例

次に、bob という 1 人のユーザを表示する例を示します。

```
switchxxxxxx# show radius server user username bob
User bob
  Group: developers
  Password's MD5: 1238af77aaca17568f1298cced1255cc
```

show radius server unknown nas

不明な NAS を表示するには、特権 EXEC モードで **show radius server unknown nas** コマンドを使用します。

構文

show radius server unknown nas

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

RADIUS サーバは、最後の 100 個の不明な NAS をサイクルキャッシュに保存します。

例

次に、不明な NAS から受信した RADIUS 要求を表示する例を示します。

```
switchxxxxxx# show radius server unknown nas
30-Jun-14 16:44 NAS Address: 10.1.1.1
30-Jun-14 16:04 NAS Address: 10.1.1.1
*20-Feb-08, 9:20, Date and Time were updated to 29-Jun-14, 11:00
20-Feb-08 16:24 NAS Address: 10.1.1.1
20-Feb-08 14:14 NAS Address: 10.1.1.1
*20-Feb-08, 9:00, Reboot
```

vlan

RADIUS 割り当て済み VLAN を定義するには、RADIUS サーバグループ コンフィギュレーション モードで **vlan** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
vlan {id vlan-id | name vlan-name}
```

```
no vlan
```

パラメータ

- **vlan-id** : VLAN ID を指定します。(範囲 : 1 ~ 4094)
- **vlan-name** : VLAN 名を指定します。(長さ : 1 ~ 32 文字)

デフォルト設定

RADIUS 割り当て済み VLAN なし

コマンドモード

RADIUS サーバグループ コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

vlan コマンドを使用して、RADIUS クライアントに VLAN を割り当てます。この RADIUS 割り当て済み VLAN は、次の属性の Access-Accept メッセージで RADIUS クライアントに渡されます。

- Tunnel-Type(64)
- Tunnel-Medium-Type (65)
- Tunnel-Private-Group-ID(81)

VLAN が割り当てられていない場合、これらの属性は Access-Accept メッセージに含まれません。

VLAN の割り当てを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

例

次に、開発者グループのユーザに VLAN 100 を割り当てて、マネージャグループのユーザの VLAN 名前管理を指定する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# radius server group developers  
switchxxxxxx(config-radser-group)# vlan id 100  
switchxxxxxx(config-radser-group)# exit  
switchxxxxxx(config)# radius server group managers
```

```
switchxxxxxx(config-radser-group)# vlan name management  
switchxxxxxx(config-radser-group)# exit  
switchxxxxxx(config)#
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。